



平成 30 年 11 月 15 日

各 位

会 社 名 ラクスル株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 松本 恭攝
(コード：4384、東証マザーズ)
問合せ先 取締役 CFO 永見 世央
(TEL. 03-6629-4893)

関係会社株式評価損（特別損失）の計上に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、下記のとおり、特別損失を計上することについて決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 関係会社株式評価損（特別損失）の内容

当社の非連結子会社である RAKSUL INTERNATIONAL PTE. LTD. の財政状態及び業績等を勘案した結果、平成 31 年 7 月期第 1 四半期会計期間（平成 30 年 8 月 1 日～平成 30 年 10 月 31 日）において減損処理による関係会社株式評価損を特別損失として 44 百万円計上することといたしました。

2. 今後の見通し

当社は印刷事業の海外展開の一環として、RAKSUL INTERNATIONAL PTE. LTD. を通じてインドネシア及びインドにおいて現地の印刷 EC 企業に対してベンチャー投資を行ってまいりましたが、その後の当該企業における資金調達がスムーズに進まなかったことから減損処理に至りました。なお、上記以外に海外企業に対するベンチャー投資はございません。

当社が日本国内で展開する事業領域において、新興国の市場成長と EC 化進展を見込み、早期に投資をするという投資テーマは適切であったと考えております。しかしながら、当初インドネシア及びインドでの印刷 EC 市場の立ち上がりを数年程度と想定していたものの、実際には 10 年程度の期間が必要であると見込まれ、結果として適切な時期での投資とならず特別損失の計上に至ったものであります。

上記を踏まえ、今後当社は国内外問わず、既存事業とのシナジーを見込める投資を最優先としながら、新しい産業領域の開拓においても投資を実施していく方針であります。

なお、平成 31 年 7 月期第 1 四半期会計期間の業績（監査法人による監査前）は、売上高 3,430 百万円（前年同期比 43.6%増）、売上総利益 820 百万円（前年同期比 37.9%増）の見込みとなっております。また、通期の業績につきましては、平成 30 年 9 月 13 日公表の業績予想の通り、当社の企業価値向上の源泉となる売上総利益及びその前提としての売上高は前事業年度比 30%以上の成長、また、営業利益以下の各段階利益の黒字の見通しに変更はございません。

引き続き、当社が運営する「ラクスル」及び「ハコベル」のプラットフォーム価値を高めるための再投資を継続することが当社の企業価値向上にとって最重要であると考えており、国内の主たる事業であります印刷事業（印刷 EC サービス及び広告サービス）及び運送事業の拡大に注力してまいります。

（注）上記の平成 31 年 7 月期第 1 四半期会計期間の業績につきましては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき記載したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により異なる場合があります。

以 上